

木屋進 きやま すすむ 小説家。大正九年千葉県生れ（一九二〇）。新聞記者を経て作家生活。山手樹一郎主宰新樹會同人。

著書『艶筆女人伝記』（昭和二十一年十一月）二十五日文芸評論社『艶筆文庫』、『閨法師参上』（昭和二十二年六月）二十日雄文社、『柔肌は甘く哀しき』（昭和二十二年七月）二十五日總高書房）、『袖笠千両駕』（昭和二十四年三月）二十五日同人社）、『秘剣の生涯（刃影非命録）』（昭和二十九年十月十日久保書店）、『刃法おぼろ障』（昭和四十年八月十五日青樹社）、『花情記』（昭和四十二年八月二十日東京文藝社）、『家紋運しあなだの家紋はと身出世型の名門の糸』（昭和五十一年一月十日双葉社「Futaba Books」）、『赤穂の塩影』（昭和五十六年十一月十日スボ（ニ）出版）等。

